

ギャラリー

10万人の

府所町にお住まいの福田真二さんの竹工画「コスモス」を紹介いたします。

福田さんが竹工画を始めたのは、2年前のことです。展示会で、すばらしい作品に魅了され、その日のうちにグループに入会しました。まず下絵を描いて薄い板状にした竹に貼り、写した形をはさみで切り、竹のパーツを作ります。電



▶ 福田真二さんの竹工画作品「コスモス」

気ごとで焼き色を付けて色の濃淡を出し、立体感を表現します。パーツは、貼り付ける順番によって遠近感が出るので組み合わせる順番が大切です。

竹は繊維が真つすくなため、はさみを入れると割れやすく、慎重に作業を進めなければなりません。作品の出来を左右する焼き加減もとても難しい工程です。福田さんは「根気ひとつです」と話します。

苦勞の末、竹の持つ美しさを生かした作品が出来上がったときは、何とも言えないうれしさと達成感で満たされるそうです。「子どもや孫たちに残したい」と作品を作り続けます。

★作品募集★

10万人のギャラリーの作品を募集しています。絵画、工芸、木版画などみなさんの力作をお寄せください。問い合わせ先 広報広聴係

☎(03)21228

作品介绍 131

川上澄生の世界

この作品を見て、まず目に入るのは画面中央の女性の顔です。その顔は克明に描かれ、特定のモデルの存在を感じさせます。次に、画面右にある詩を見てみましょう。

大勢の顔は
塵芥の如く流れ
あなたの顔のみ

花の如く、ああ花の如く
夕暮の街に明るい

群衆の中で目に映るのは「あなたの顔のみ」。その女性に強く魅かれていた様子がよく分かります。澄生には青春時代、想いを寄せる女性がいまいました。声をかけることもままならず失恋しましたが、その女性のことが忘れられずにいました。この作品では、その女性への賛美が込められています。画面左には、そっとこちらを見つめる男性が描かれており、青春時代の澄生の姿と重なって見えます。

現在開催中の「川上澄生が描いた女性」展では、木版画や詩、短歌を通して澄生の女性像の変遷をたどります。代表作《初夏の風》も展示しておりますのでぜひお越しください。



学芸員 白井佐知子
本作品は、2階展示室で開催中の「川上澄生が描いた女性—ノスタルジアを求めて—」展に出品しています。

川上澄生美術館からのお知らせ

問い合わせ ☎(02)8272

1階展示ホール（入場無料）では「第一五回木版画大賞受賞者 廣瀬理紗 木口木版画」を同時開催しています。

「顔」

一九二六年（大正十五）

木版多色刷 紙

（画面寸法 縦18.1×横24.4cm）